

あけぼの大豆の今後の管理について (かん水と病害虫防除)

令和7年7月23日

身延町あけぼの大豆振興協議会

峡南農務事務所農業農村支援課

今年度は6～7月にかけて高温(平年比+2～3℃)傾向で推移した。6月10日に梅雨入りしたが、7月上旬まで降水がほとんどなく推移した。しかし、14日以降台風5号などによる雨があり、平年よりかなり多い降水となりました。また今後1ヶ月は気温が高くなることが予想されています。

今後、あけぼの大豆の開花期となり、今後の管理が、収量や品質に大きく影響してきます。R6は開花期の少雨・乾燥により、収量に悪影響を及ぼしました。

今後の気象条件に注意し、次の事項を参考に適切な管理を行いましょう。

1 圃場管理

○中耕培土(2回目)

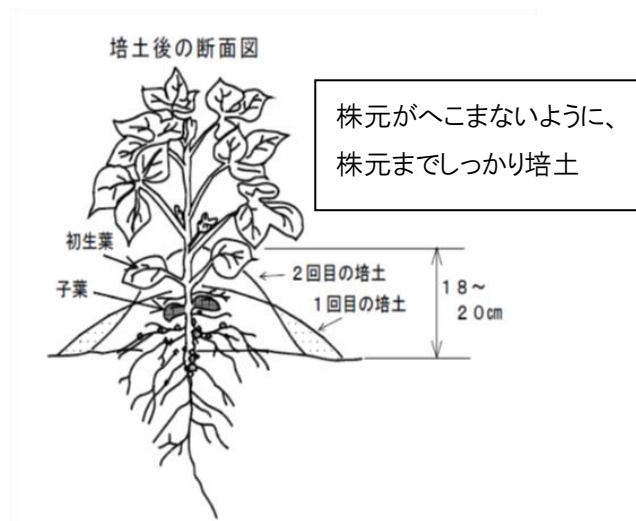
倒伏軽減、雑草抑制、根圏の改善

→ 収量・品質の向上につながります。

★本葉5～6枚頃

初生葉節の高さまで(18～20cm程度)

管理機などで土寄せ



○かん水等

★時期

開花直前～開花後40日頃(子実肥大期)は大豆が最も水を必要とする時期です。

1週間以上乾燥条件が続き、以下のような圃場ではかん水を行いましょう。

・日中葉のしおれ(葉が反転)が50%以上見られる

・株間や畦間が白くなり乾いている

★方法

圃場では、夕方からうね間に水を入れ、朝にはひくようなかん水をしましょう。

水がたまりやすい圃場では、湿害防止のため、排水を速やかに行いましょう。



○追肥(※生育状況に応じて)

開花期は大豆の養分の吸収量が増加するため、土の養分が少なく初期生育が悪い圃場や葉色の薄い圃場などは、生育状況を見ながら追肥を行いましょう。

<方法1>

時期:開花始め～開花 10 日頃

施用量:窒素分量(N)で 10a あたり 2kg 程度

例)尿素(窒素N40%含む)を使う場合→10a あたり 5kg を施用。

<方法2> 尿素(尿素 46%を使う場合)

開花期～子実肥大期に葉面散布。(施用例 水 100L に尿素 1.5kg を溶かす(約 66 倍希釈))。開花期～子実肥大期の 10 日毎に1回(計 3 回)。薬剤散布混用可。

<方法3> LP コート 70

2回目の中耕培土前に LP コート 70 を 10kg/10a 畝間に施用する。

※土壌が乾燥している場合、うね間のかん水と併せて追肥すると効果が高まる。

○摘心(※倒伏することが多く、生育量を制御したい方)

開花直前(8月上旬)に草高40cm程度の高さで摘心。

※R7は、7月下旬に摘心、機械の活用などの試験を実施



40cm
程度

2 病虫害防除

開花期以降の病虫害対策は非常に重要です。薬剤防除が遅れないように注意しましょう。

莢に薬剤がよく付着するように丁寧に散布しましょう。

<特に注意が必要な病虫害>

紫斑病

○特徴

- ・種子で伝染する病害。
- ・子実、葉、莢に紫黒色の斑点が生じる。

○防除対策

- ・開花 10 日後～35 日後頃(幼莢期)の薬剤散布の実施。
主な薬剤:ゲッター水和剤
- ・適期に収穫し、早く乾燥させる。



英害虫（マメシンクイガ、カメムシ類等）

○特徴

- ・8月～9月（開花期～子実肥大期）に発生が増加。
- ・マメシンクイガ等：幼虫が茎や子実を食害。
- ・カメムシ類：成虫、幼虫が莢や子実を吸汁。

○防除対策

- ・開花終期～子実肥大期の薬剤散布の実施。
散布目安：7～10 日おきに 3 回程度散布する。
主な薬剤：スミチオン乳剤、トレボン乳剤等



ハスモンヨトウ

○特徴

- ・卵を大豆の葉裏にかたまりで産み付ける。
ふ化後、群せいして、葉を食害する（白変葉）。
- ・葉だけでなく、莢・子実も加害する。
- ・成虫の発生は 8 月中旬以降に急増して、
9 月にピークが見られる。

○防除対策

- ・開花終期～子実肥大期の薬剤散布の実施。
特に 9 月に高温が続く場合、防除を行う。
主な薬剤：アニキ乳剤、グレースシア乳剤、プレバソンフロアブル 5
※収穫期が近いので、収穫前日数には十分注意する。



ハダニ類

○特徴

- ・葉を加害するダニ：カンザワハダニ、ナミハダニなど。
- ・加害により、葉にかすり状の白点や茶色の斑点を生じる。
- ・被害が進むと葉全体が黄色化。

○防除対策

- ・発見したら、葉裏に薬剤がかかるよう丁寧に散布を行う。
主な薬剤：コロマイト乳剤、ニツソラン水和剤、
カスケード乳剤
防除を複数回行う場合は、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、
同一薬剤の連続散布は行わない。



(参考) あけぼの大豆(えだまめ) 薬剤の防除体系(例)

散布時期	薬剤名	対象	使用方法
開花終わり (8/20 頃)	スミチオン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ等	1,000 倍・収穫 21 日前・4 回以内

7~10日後

子実肥大期 (8/30 頃)	ゲッター水和剤 ※	紫斑病	(ダイズ)1,000 倍・収穫 14 日前 ・3 回以内 (エダマメ)1,500 倍・収穫 7 日前 ・3 回以内
	加用 トレボン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ等	1,000 倍・収穫 14 日前・2 回以内

7~10日後

子実伸長期 (9/10 頃)	ゲッター水和剤 ※	紫斑病	(ダイズ)1,000 倍・収穫 14 日前 ・3 回以内 (エダマメ)1,500 倍・収穫 7 日前 ・3 回以内
	加用 トレボン乳剤	カメムシ類、マメシンクイガ等	1,000 倍・収穫 14 日前・2 回以内

秋が高温等 (9/20 頃～ ★)	アニキ乳剤 ※	ハスモンヨトウ	2,000～3,000 倍 ・収穫前日・3 回以内
	どれか1つ グレーシア乳剤	ハスモンヨトウ、 マメシンクイガ	(ダイズ)2,000～3,000 倍 ・収穫 14 日前・2 回以内 (エダマメ) 2,000～3,000 倍・ 収穫前日・2 回以内
	プレバソンフロア ブル 5	ハスモンヨト ウ、マメシンク イガ	(ダイズ)4,000 倍 ・収穫 7 日前・ <u>2 回以内</u> (エダマメ) 4,000 倍・ 収穫 3 日前・ <u>3 回以内</u>

★病害虫の発生状況に応じて散布時期を早めるなどの対応も必要なので、注意する。

※天候や病害虫の発生状況に応じて追加散布を行ってください。

◇農薬使用時の注意点

・「エダマメ」と「ダイズ」では使用できる農薬の使用方法が異なる場合があります。

収穫前日数や使用回数に注意して使用してください。

・農薬の容器のラベルや袋の記載内容を必ず確認してから使用してください。